

327字

2,000円

## 【ライフプランを描こう】

物価の変動や給料カットに振り回されていませんか？ライフプランを描くと次の3つが確認でき、将来を見通した家計を作れます。

- ①住宅購入、進学や退職、老後といったライフイベント（行事）の時期
- ②ライフイベントを無事迎えるキャッシュフロー表（家計収支）
- ③優先するライフイベントの確認

キャッシュフロー表を作ると、最初は将来が赤字続きになる方が多いものです。そこで家計の見直しをスタート。保険料やローン等（固定費）、娯楽費等（変動費）、貯蓄の運用状態などの見直しが考えられます。キャッシュフロー表はイベントや収支等の変化があるため数年ごとに修正を加えます。それを続けることで、より安定した家計が生まれると同時に世の中をよく見渡そうとしている自分の変化にも気づくはずですよ。

456字

3,000円

## 【今なら間に合う「老後資金」の増やし方】

先だって発表された「国民生活に関する世論調査」によると、「老後の生活設計」に不安や悩みがあると答えた方が1981年の調査以降初めて7割を超えました。おそらく高齢化社会による社会保障費のUPや年金制度への不安、どれだけ貯蓄できるかなどがあるのでしょうか。働けなくなった老後の生活費は一般的に年金と貯蓄の取り崩しです。老後の貯蓄は少額でも良いから早くからスタートさせて「時間」を味方につけるのがコツです。早くスタートすればするほど老後までの時間があるため、金利や運用益を享受できる期間も増します。とはいえ低利の固定金利に長期間放置するだけでは増える期待はもてません。ぜひ自身で時代をしっかりと追い、上昇している国や業種には投資を、ピーク時には現金や債券に換え、下降期には高利の債券で持つというように預ける先を巡らせていきましょう。具体的な商品では「確定拠出年金」はいかがですか？加入できる方であれば、掛金に対する所得控除等の税金面でのお得さに加え、60歳まで引き出せないため半強制的に貯蓄+投資信託運用ができますよ。

666字+図

4,000円

Q. この金融不安は我が家の住宅ローンには何か影響はあるのですか？

【借換えや、繰上返済を意識してみましょう】

金利の高い時期に住宅ローンを借りている方は、金利の低いローンに借換える検討をしてみたいかがでしょう。ただし、諸費用がかかるため、借換えてメリットがでるかどうかは表1の全てにあてはまるかどうかを目安としてください。

尚、借換えは、いま借りている金融機関ではできません。他行で借換えシミュレーションをしてもらい判断するとよいでしょう。

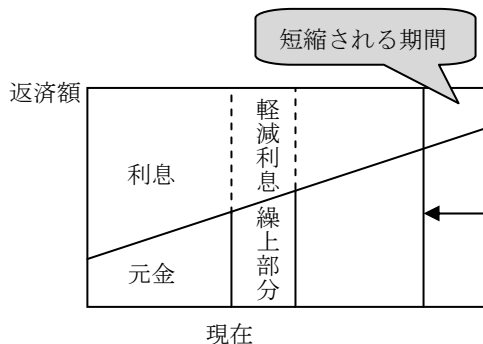
＜表1＞借換え判断の目安

ローン残高が500万円以上ある
返済期間が10年以上ある
借換えローンとの金利差が1%以上ある

ここ数年の間に借りている方で、固定金利選択型のローンを利用している人は、更新時に次は短期（3年・5年）の固定型にするか、またはそれ以上長期にするかの選択がやってきます。利下げがあると考えたら短期固定型を、利下げがあっても幅は小さいとか、3～5年内には利上げの可能性を思うなら長期固定型を選ぶとよいでしょう。

いずれにせよ、貯蓄に余力があるなら、繰上返済はすぐにでも検討しましょう。実行が早いほど、利息軽減の効果は大きくなるからです。繰上返済には「期間短縮型（図1）」と「返済額軽減型（図2）」の2方法があるので、今後の生活設計を考えて選びます。学費等の負担増や、収入減を心配するなら「返済額軽減型」を、老後を考えて少しでも早めに返したいとか、利息の軽減効果を追求するなら「期間短縮型」が良いでしょう。手続きする金融機関で比較シミュレーションをしてくれるので、相談してみましょう。

＜図1＞期間短縮型



＜図2＞返済額軽減型

